

## 高校生 税の使い道学ぶ

県教育推進協 福井南高で教室

税金の集め方について意見を出し合う生徒＝8日、福井市の福井南高



高校生に税金の役割や大切さを理解してもらおうと、県租税教育推進協は8日、福井市の福井南高で租税教室を開いた。生徒たちは税金の集め方や使い道などを身近な例やクイズを用いて学んだ。

1年生81人が参加し、

福井税務署税務広報広聴官の岡崎猛さん(45)が講師を務めた。

岡崎さんは、税金の公平な負担方法をクイズで出題。生徒たちは、皆で使う物に対し、誰がどれだけ負担するべきか話し合った。収入の多い人が多く税金を払うべきだという意見や、皆が同額払うべきだという意見が出た。

また、高齢化により国の借金が若い世代の負担になる可能性があるとの説明に、生徒たちは真剣な表情で聞き入っていた。授業を受けた東川優さんは「自分が払った税金が何に使われているのか具体的なイメージがついた」と話した。水野駿清さんは「国の借金に関心が湧いた。これから自分たちが(税金を納め社会を支える)世代になっていくから、真剣に考えていきたい」と話していた。

(藤田有美)